

第6学年国語科 ESD 学習指導案

奈良教育大学 教育学専修3回生 197103 岩城雄大

1. 単元名：「人と地球にやさしい料理のレシピ本を作ろう！」
2. 学習目標：自分が考えたことを説明し、伝えたいことを明確にした文章が書けるようになる
3. 児童観

文章の構成や展開を考えて書く力をつけ、今後社会に出たときに企画書や報告書、意見書などを書き、説明する際の基礎となるような体験をさせたい。

4. 教材観

この教材のテーマは総合的な学習の時間や家庭科において取り扱ってきた調理方法やSDGsにかなった食材選びなどをもとに、自分の体と地球環境にやさしい料理に関する説明的な文章・レシピを書き、内容を交流することで説明が聞いている人みんなに伝わるという体験をするのにふさわしいものだと考えた。持続可能な社会を創るために自分たちはどの食材を選べばよいのかということを調べ、考え、説明ができるようになれば、日常の消費行動が変革するかもしれない。ESDと国語科とを組み合わせた授業が展開できそうな教材である。

5. 指導観

好きな料理を各自で1つ選ばせ、その作り方や食材について調べさせる。そして、自分の体に優しく、地球環境にもやさしい料理にするにはどうすればよいか考えさせる。自分が考えたこと、どの食材を使うべきかという目的や意図に応じて、説明できるように指導支援を行っていく。SDGsを意識して日々の消費活動が行えるように、SDGsでなくとも、地域に貢献し、地域社会を持続可能にする消費活動を行えるような感覚を知ってもらおうようにしていく。

6. ESDの視点

多様性	相互性	有限性
・文章の題材	・同じテーマの他の児童との着目点の違い	・資源やエネルギーなど
公平性	連携性	責任性
・食事の世代間公正・食事の世代内公正	・家庭と連携を取り、実際に作ったレシピを実践してみる	・自分が書く文章は確信を持つ ・説明し、行動を決意する。

7. ESD で育てたい資質・能力

クリティカル・シンキング	システムズ・シンキング	コミュニケーション力
<ul style="list-style-type: none"> ・料理について→作り方→食材選び→感想、という流れを意識させ、効果的に伝わる文章を書かせる。 ・選んだ料理の作り方に自分のアレンジを加えて持続可能にしていくこと。 ・文章の書き方に対して「これで本当に伝わるのだろうか」と推敲すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水の循環や海の豊かさ、陸の豊かさ、ごみの問題などに着目し、生態系などと自分が作る料理の関係も考え、レシピを作成していく。 ・世界を変えていくには人間一人ひとりの行動を変えていく必要がある、自分たちはどのようなことができるのかということに着目していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は説明的な文章を書くことで自分の説明を伝えるということが学習目標になっている。その改善・推敲を続けていくこと。

8. この学習で育みたい ESD の価値観

「世代内の公正を意識できる」

私たちが生きている世界に同時に生きている人々への意識を育て、どの食材を選ぶかということを考えさせる。自分だけでなく、他者をも喜ばせることのできる食材選びを考える。地産地消やフェアトレードについて考える。

「自然環境や生態系の保全の重視をする」

私たちのからだやこころの健康と地球環境の保全や回復について考えさせる。私たちは自然の一部であり、私たちが人と地球にやさしい料理を作り、そのようなことを続けていくことは、現在起こっている様々な人為的な災害を減災することができる行為であると言える。このことをこの教材を通して育んでいきたい。

9. 関連する SDG s

目標 3：すべての人に健康と福祉を

「人と地球にやさしい料理」のうち、「人にやさしい料理」を考えさせることがこの目標の健康への視点になる。

目標 12：つくる責任、つかう責任

つかう人（消費者）が品物の原材料名を読み、どの商品を選択するかによって私たちのからだやこころ、また、地球環境にやさしい品物が流通し、生産されるということに気づかせる。

目標 14：海の豊かさを守ろう

海洋プラスチックの問題や魚の取りすぎの問題に触れさせる。

目標 15：陸の豊かさを守ろう

農薬の使用や大量生産の農業をすることによって土が痩せているという事例が出て

きている。そのことについて触れさせ、土（地球）にやさしい農耕の在り方、食材選びについて考えさせる。

10. 評価規準

- ・原因と結果など、情報と情報の関係づけを行えること。【知識・技能（2）ア】
- ・目的や意図に応じて自分の伝えたいことを明確にすること。【思考力・判断力・表現力等 B書くこと（1）ア】
- ・筋道の通った文章となるように構成や展開を考え、伝わりやすい説明文（レシピ）を書くこと。【思考力・判断力・表現力等 B書くこと（1）イ】

11. 単元指導計画（全9時間）

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準〈評価方法〉
0	0	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の体に優しく、地球環境にもやさしい料理について考える。 ・自分が検討する料理を決める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習 ・家庭科の調理実習や日々の家庭での生活から、作りたい料理を選ばせる。 ・導入として「自分の体に優しく、地球環境にもやさしい料理をつくるにはどのようにすればよいか？」という発問をし、授業前に考えさせる。 	
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・料理の由来を調べ、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館・タブレットを利用する ・その料理の発祥の地と、どのような材料で作られているのかということ調べる。 	
	2	<ul style="list-style-type: none"> ・料理の作り方について調べ、まとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・この時間には作り方を調べさせ、実際に作る際にどのような手順を踏むのか把握させる。 ・図書館・タブレットを利用する 	

3 4 5	<p>・料理に使う食材の選び方について SDGs、地産地消、フェアトレード、食品添加物・農薬、レジ袋の観点から調べる。</p> <p>・どのような食材を使い、どのような買い物をすれば、自分の体に優しく、地球環境にも優しくなるか考える。</p>	<p>・図書館・タブレットを利用する</p> <p>・消費者庁のエシカル消費にまつわるウェブサイト参照させたり、地域の農家が減少している状況を伝え、どのようにすれば減少を抑えることができるかということに着目させたりして、食材選びを行っていく。</p> <p>・プラスチックごみ・レジ袋の問題も取り上げる。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・自分の選んだ料理の食材を調べ、自分の体と地球環境に優しくするためにどのような食材を使いたい根拠とともに示している【知識・技能(2)ア】 〈ワークシート〉</p> </div> <p>・宿題：自分が作ったレシピで調理し、感想を書いてくる。</p>
6	<p>・作って食べてみた感想をまとめる。</p>	<p>・この授業の前に保護者の方と連携し、宿題で自分のレシピと選んだ食材で作り、食べてみるということを行わせる。その上で、自分が感じたことと、保護者の方から言われたことなどから感想を書かせる。</p>	
2 7 8	<p>・「選んだ料理について」「その料理の作り方」「その料理の自分の体と地球環境にやさしい食材選び」「作ってみた感想」の4節で書いていく。</p>	<p>・これまで4回にわたって書いてきたそれぞれの節を組み合わせて書いていく。</p> <p>・なぜその料理を選んだのか、なぜその食材を使ったのかということも書かせる。</p> <p>・食材選びを書く際にエシカル消費のどの分</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・学習目標に応じて自分の伝えたいことが明確になっている。【思考力・判断力・表現力等B書くこと(1)ア】 〈レポート用紙右ページ〉</p> </div>

			<p>野に注目したかということ</p> <p>ことを盛り込んで書かせる。</p> <p>・授業終わりに回収し、添削する。</p>	
3	9	<p>・自分が選んだ料理は何か、レシピを書いて分かったこと、食材選びに際して理解したことなどを交流する</p>	<p>・班内で発表させていく。「1人3分ずつ発表していく」ということだけを伝え、全児童が発表できるようにする。</p> <p>・班員への感想をノートに書かせる</p> <p>・発表会で話をする代表を決めさせる</p>	<p>・自分が考えた説明的な文章が読む人に伝わるものになっている。【思考力・判断力・表現力等B書くこと(1)イ】〈相互発表・ノート〉</p>

12. ESDの視点「エシカル消費」について

食材選びの時、主にエシカル消費について調べさせる。

そのなかでも、地産地消、フェアトレード、農薬・添加物問題について調べていく。

例えば、スーパーで買った野菜と、畑の横の朝市や無人販売店で買った野菜を食べ比べたり、その商品が届くまでの過程をさかのぼってかかる費用やエネルギーを考えてみたりすることで、地球環境にやさしい食材選びを考えてみる。

自分たちの体にも優しくするために農薬・添加物の問題を取り上げ、トランス脂肪酸、人工甘味料や人工調味料の功罪を示す。食品添加物は多く摂取すると中毒が発生することが認められているが、少量であれば商品を良く見せたり、保存がきいたりすることから厚生労働省が定める基準量より少なければ使うことが認められているものである。食品添加物は表示義務があるので、袋詰めやパック詰め商品の裏には必ず書かれている。それを確認する癖をつけておくと、買い物面白くなるということも伝える。遺伝子組み換え食品の話もできれば行う。

選ぶのは自分次第なので、そのことも伝えつつ、どの食材を選ぶのか決めさせる。また、野菜やお肉を作ってくれる生産者の方々への支援ができるようにという視点を入れて、地産地消、フェアトレードの食材を買うことの意味を考えさせる。生産者と私たち消費者の間に入る問屋の存在、海外からの輸入品の多くが大きな会社に有利になるような仕方で行われていること、長い距離を移動するために防腐剤や保存料などが使われ

ていること、それに至るには歴史があったことなどを紐解き、どの食材を選ぶか決めさせる。プラスチック容器や袋の問題についても軽くふれ、海洋がプラスチックで汚染されてきていることを伝え、どのような商品を選択するか考えさせる。

13. ワークシート（別紙）
14. レポート用紙（別紙）